

令和6年度 御殿場市議会 経済環境委員会 行政視察報告書

1. 日程 令和6年6月28日(金)

2. 視察先及び視察事項

(1) 神奈川県横須賀市

○うみかぜ公園整備事業について

(2) 神奈川県秦野市

○移住お試し住宅 TANZAWA LIFE (はだの丹沢ライフ応援事業) について

3. 参加者

委員長 勝間田 博文

副委員長 永井 誠一

委員 森 順 後藤 真弥 辻川 公子

勝又 正人 田代 耕一

当局 上道 幸胤 (産業スポーツ部スポーツ交流課長)

勝又 克利 (都市建設部建築住宅課副参事)

事務局 岩田 晴美 (議事課副参事)

浅子 菜美 (議事課副主任)

4. 視察先対応者

(1) 神奈川県横須賀市

港湾管理課 総務係長 大坪 健一 様

港湾管理課 総務係 佐々木 佑香 様

企画課 兼 アーバンスポーツパーク推進担当課 課長 松浦 征行 様

企画課 兼 アーバンスポーツパーク推進担当課 主査 吉田 愛美 様

企画課 兼 アーバンスポーツパーク推進担当課 担当 小林 暁子 様 ほか

(2) 神奈川県秦野市

交通住宅課 課長 大嶋 崇志 様

交通住宅課 課長代理 横溝 悠士 様 ほか

5. 視察の内容

■ うみかぜ公園整備事業について

日時：令和6年6月28日（金） 午前10時00分～午前11時00分（横須賀市役所）

午前11時10分～午後 0時00分（うみかぜ公園）

場所：横須賀市役所議会棟 及び うみかぜ公園

視察の目的

本市における若い世代のまちづくりとしてのアーバンスポーツパーク整備に活かすため、関東有数のスポーツ公園であるうみかぜ公園を視察する。

視察先の概要

神奈川県南東部、三浦半島中央部に位置し、三方を海で囲まれる海洋都市であり中核市。市内の行政・経済的都市機能が集中する東京湾岸には大工場や住宅群がひしめきあうが、農業や漁業も盛んである。

人口：371,930人 議員定数：39人【R6.4.1時点】

令和6年度一般会計当初予算額：1,689億2,000万円

視察の内容

●座学にて、バーベキュー事業、アーバンスポーツを活用した連携協定及び横須賀市の将来像について学んだ。連携協定は①JapanCup Yokosuka大会の開催②アーバンスポーツの振興③アーバンスポーツによる地域の活性化④アーバンスポーツの環境づくり⑤アーバンスポーツと横須賀の魅力発信である。

●現地視察では、芝生公園（バーベキュー利用者で賑わう）、スポーツ公園（全日本スケートボード協会の協力で整備されたスケートボードエリア・オフロード自転車練習エリア・壁打ちテニスコート・テニスコート等・バスケットコート）・親水護岸・水野丘等について説明を受けた。特に国際大会で使用された、うみかぜ公園BMX（バイシクルモトクロス）パークは、スポーツ交流人口の増大に寄与している。また、未来の選手を育成する為に市内の学校に出向き、BMXの講習会を開催しているとのこと。現地では、「利用中の事故は自己責任」の看板が設置されていた。



考察

- 若者の深夜徘徊・騒音などの社会問題を公園の開設により解決し、さらにアーバンスポーツの街としてのイメージアップを図った横須賀市の取り組みは示唆に富む。又、連携協定により積極的に大会を実施し、街の活性化に繋げている点も評価できる。
- 公園運営上、利用者の怪我に対する設置者や管理者の責任が追及される恐れが避けられない。この点、横須賀市は自己責任を前面に打ち出すと同時に利用者とコミュニケーションを取り健全運営を行っている。ここに至るまでの市の努力と長い歴史によりスポーツを文化まで昇華されていると感銘を受けた。
- 横須賀市は海・御殿場市は富士山を用いた場合、主に若者を基準にした公園設計が出来るかが課題と思われる。しかし、この広さの多目的公園はぜひ御殿場市にも欲しいと考える。
- 横須賀市のスポーツ公園は中心市街地の商業施設で賑わうエリアにあるため、本公園は会社員から子ども等多年齢層が身近に楽しめる施設となっている。特にバーベキューは周辺地区への経済波及効果も見込める。また、本格的な施設を整備している為、国際大会等を開催することにより、交流人口が増大している。御殿場市では、スポーツやバーベキューが楽しめる公園が無いので、早急に改善整備して頂きたい。
- スポーツが身近にある環境が、スポーツ大会や施設の誘致、プロスポーツチームとの交流の機会を創出することで、整備されている。それぞれのスポーツへの興味・関心に合わせた「する・見る・支える」を形にしていくことが重要と感じた。
- 地域の活性化には、地元名産品(スカジャン、ネイビーバーガーなど)とのコラボによる魅力発信や地元商店街と連携したイベントの開催(BMX割やスタンプラリーの実施など)を実施している。
- 環境づくりには、選手のセカンドキャリアの支援(指導者への転身等)や関連民間事業者等とのネットワーク形成を実施している。
- 横須賀市と御殿場市とで環境の違いはあるが、参考にすべきは、当たり前前に存在している地域の資源を活用するあり方と考える。



■移住お試し住宅 TANZAWA LIFE（はだの丹沢ライフ応援事業）について

日時：令和6年6月28日（金） 午後2時30分～午後4時

場所：秦野市役所議会棟

視察の目的

本市における地域経済活性化の取り組みに活かすため、移住お試し住宅 TANZAWA LIFE、はだの丹沢ライフ応援事業等の取組について視察する。

視察先の概要

神奈川県西部に位置し、市域北側を丹沢山塊、南側を渋沢丘陵に囲まれている。東京都心から約50km圏にあり、首都圏の業務核都市として都市機能が整備。また、環境省名水百選として、秦野名水が日本一に選ばれている。

人口：160,674人 議員定数：24人【R6.4.1時点】

令和6年度一般会計当初予算額：605億8,000万円

視察の内容

全国的に人手不足による労働力の減少に苦しむ中、地域経済活性化を目標とする事業を多くの自治体で取り組んでいる。その中で早くより人手不足対策の一つとして、秦野市は「はだの丹沢ライフ応援事業」を導入された。今回、はだの丹沢ライフ応援事業について、「移住お試し住宅 TANZAWA LIFE」及び「ミライエ秦野」を中心に、座学により学習した。

「移住お試し住宅 TANZAWA LIFE」は空き家を活用したテレワーク等の新しい生活様式に対応した戸建て住宅であり、自然豊かな秦野市での生活を体験してもらい、若年層及び子育て世帯を呼び込むことで地域経済の活性化を図っている。

また、そのほかにも民間の社宅を市が買い取り、リノベーションを行った集合住宅である「ミライエ秦野」を事業に盛り込むことで、市街地への転入及び市内への定住を促進し、市街地の活性化を図っている。

姉妹都市、防災協定都市以外の自治体とも防災、観光、産業、文化など様々な面で連携し、周辺地域を巻き込んだ活性化対策を目標としている。

考察

- 秦野市は交通網が充実しているため、各方面への新たな交通ネットワークの創出や物流拠点等の誘致、観光客の増加など多方面への効果が期待でき、御殿場市においても似たような環境にあるため、導入できる事業に関して研究していきたい。
- 定住化促進住宅等を活用することで若年層や子育て世帯の移住を実現し、新たな労働力の確保や空き家・空き店舗対策にもつなげていける可能性がある。
- 空き家バンク補助金や住宅購入助成金を活用してもらうことで住宅取得のきっかけを後押し、また、交通事業者や市内企業、東海大学など様々な主体との連携を強化することでまちづくりのパートナーとしての関係づくりなど、地域経済活性化について大変参考になる取り組みを行っている。
- 秦野市は「目指すまちの姿」として、豊かな自然と共生したスローライフを提言している。その中で、「お試し住宅」ができる特徴ある住宅を市街地及び郊外の双方に提供し、実際に生活してもらうという画期的かつユニークな取り組みは、特に新たに生活拠点を定める必要が生じる若者世代、子育て世代には有効な施策であると感じる。
- 本施策に併せ、秦野市で生活することの利点(地価・賃貸料の安さや交通の便、自然・環境)を積極的にPRするとともに、継続的に新たな「お試し」検討者の発掘を行う意欲・姿勢は、見習わなければならないと思料する。
- 「はだの丹沢ライフ応援事業」として、これらを利用しながら家を探して永住すると最大60万円の住宅購入助成も受けられるため、移住・定住についての一層の意識喚起にはなると考える。(助成については転入加算・子育て加算・結婚新生活加算・さと地共生住宅加算・空き家加算と、それぞれ10万円で各種取り組みを総合的にまとめている点も高評価である。)
- 首都圏神奈川県においては西のはずれに位置し、「程よい都会程よい田舎」という面では御殿場市にも大いに参考になる。田舎と都会が共存するまち・交通アクセスの良さ・富士山の絶景などは御殿場市のストロングポイントであるので、今後の空き家対策等を含む地域経済活性化施策に大いに役立てていきたい。

